

# マダニ対策、今できること

1. マダニの生息場所
2. マダニから身を守る服装
3. マダニから身を守る方法
4. 忌避剤の効果
5. 国内で入手できる忌避剤の種類と特徴



参考資料

- 1) マダニの分類とマダニ媒介感染症
- 2) マダニ媒介SFTSとは
- 3) マダニの生活環

朝賀 仲路 Illustrations  
衛生昆虫写真館 Photos

## マダニ対策に関するお問い合わせ

国立感染症研究所昆虫医科学部

Tel: 03-5285-1111 (代表)

Fax: 03-5285-1178

e-mail: info@nih.go.jp

## SFTS対策全般に関するお問い合わせ

国立感染症研究所

Tel: 03-5285-1111(代表)

厚生労働省健康局結核感染症課

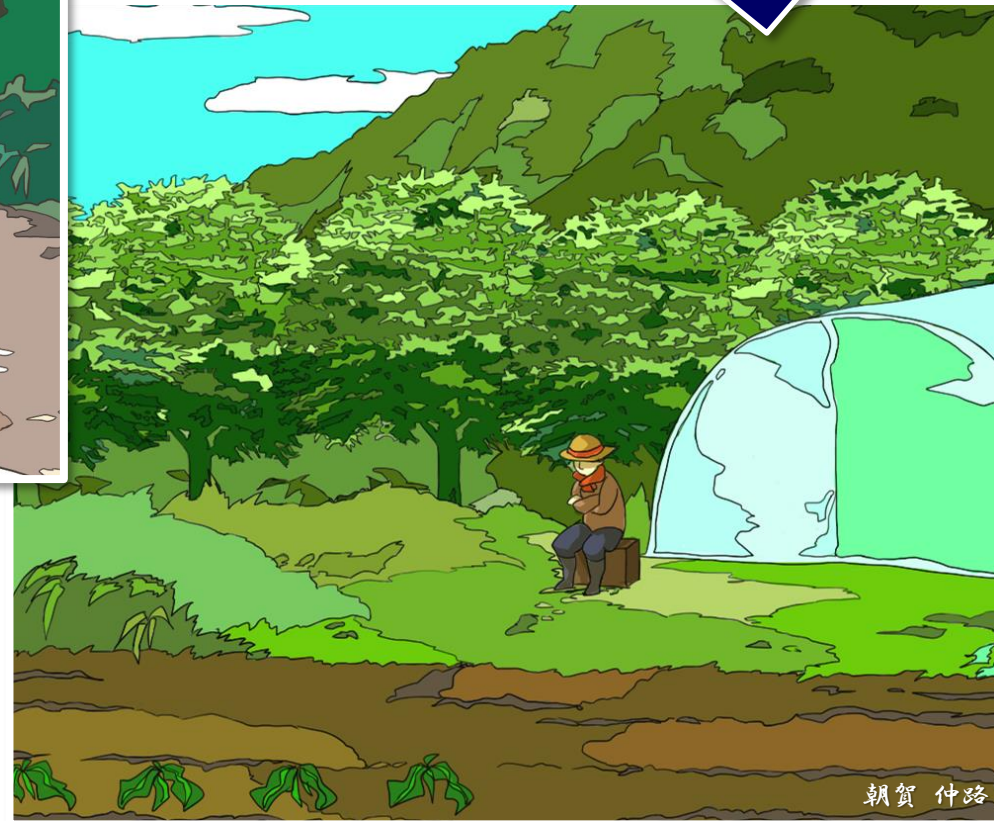
Tel: 03-5253-1111(代表)

# 1. マダニの生息場所

マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



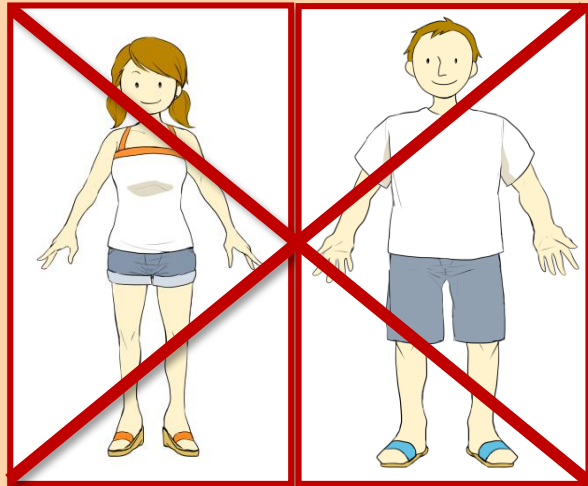
マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。



## 2. マダニから身を守る服装

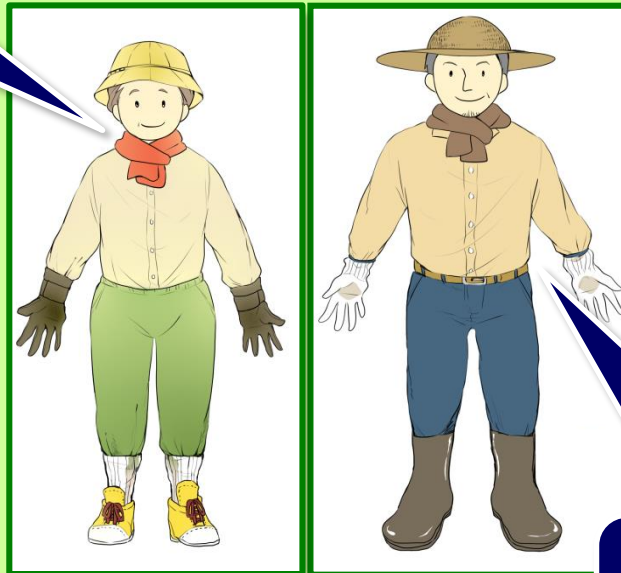
野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

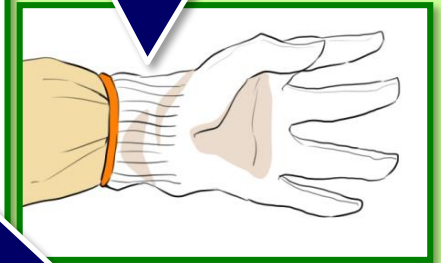


半ズボンやサンダル履きは不適當です！

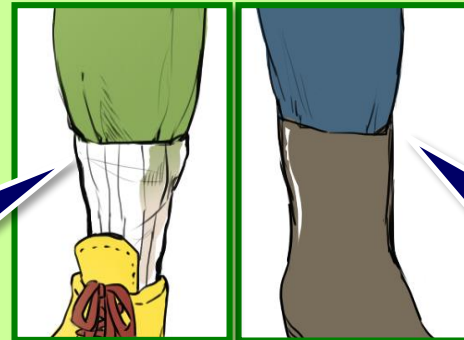
ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。



シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。



シャツの裾はズボンの中に入れてみましょう。



農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

### 3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、  
家の中に持ち込まない  
ようにしましょう。



屋外活動後は、  
シャワーや入浴で、  
ダニが付いていないか  
チェックしましょう。



ガムテープ  
を使って服に  
付いたダニを  
取り除く方法  
も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

## 4. 忌避剤の効果

### マダニに対する忌避剤

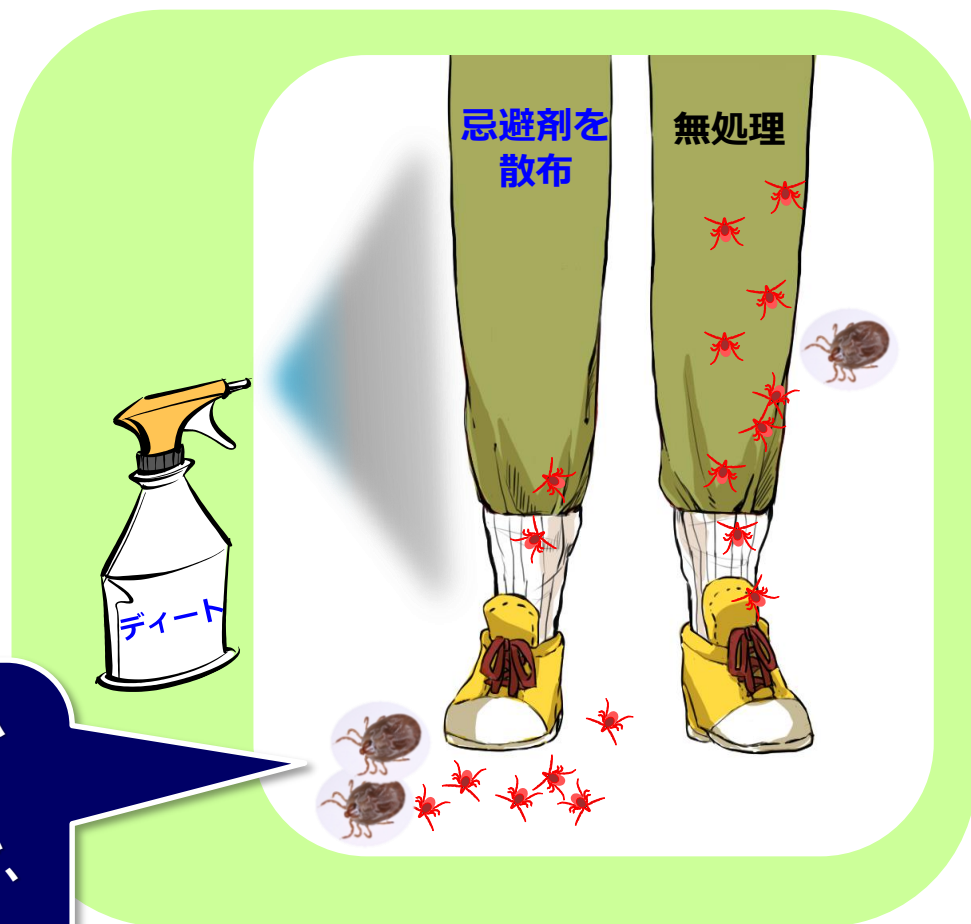
(虫よけ剤) が、2013年から

新たに認可されました。

現在は、ディート、イカリジンの  
2種類の有効成分の忌避剤が市販  
されています。

**忌避剤**の使用でマダニの付着数は減少

しますが、マダニの付着を完全に防ぐ  
わけではありません。忌避剤を過信せず、  
様々な防護手段と組み合わせて対策  
を取ってください。



# 5. 国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

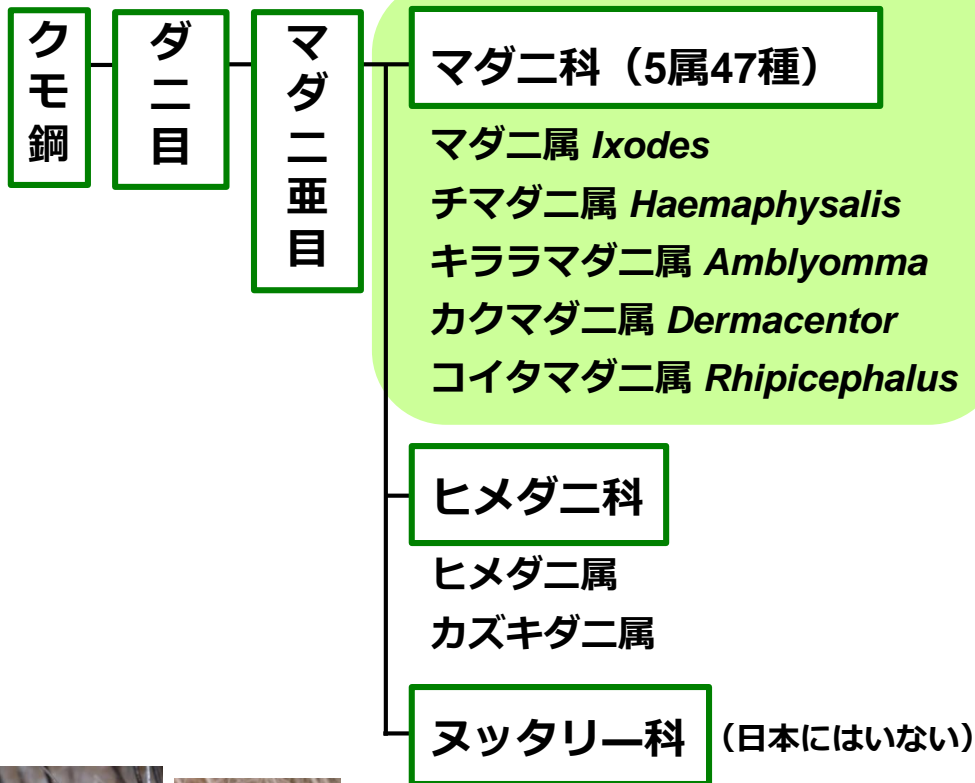
忌避剤	有効成分含有率	分類	効力持続時間の目安	注意事項	特徴
ディート	5~10 %	防除用 医薬部外品	5% 約2時間 <sup>1)</sup> 10% 約3時間 <sup>1)</sup> 15% 約5時間 <sup>1)</sup>	6ヶ月未満には 使用しない  6ヶ月以上2歳 未満1日1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独特の匂い</li> <li>・べたつき感</li> <li>・高濃度では プラスチック・ 化学繊維・皮革 を腐食すること がある</li> </ul>
	12 %	第2類医薬品		2歳以上12歳 未満1日1~3回	
	高濃度製剤 30 %	第2類医薬品	5~8時間 <sup>2)</sup>	12歳未満には 使用しない	
イカリジン	5 %	防除用 医薬部外品	6時間 <sup>2)</sup>	使用制限は特に なし	
	高濃度製剤 15 %	防除用 医薬部外品	6~8時間 <sup>2)</sup>		

1) “Safety Tips on Using Personal Insect Repellents”, Health Canada (2003) を参照

2) 容器裏面に記載

# 参考資料 1) マダニの分類とマダニ媒介感染症

**マダニ**は、世界中に800以上の種が知られています。そのうち日本には47種が生息しています。



## マダニが媒介する感染症

( ) 内は病原体の種類

日本紅斑熱 (リケッチア)

Q熱 (リケッチア)

ライム病 (スピロヘータ)

ボレリア症 (細菌)

野兔病 (細菌)

**重症熱性血小板減少症候群 SFTS**

(フレボウイルス)

ダニ媒介性脳炎 (フラビウイルス)

キャサヌル森林病 (フラビウイルス)

クリミア・コンゴ出血熱

(ナイロウイルス)

..... など

# 参考資料 2) マダニ媒介SFTSとは

## 重症熱性血小板減少症候群 (Sever fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)

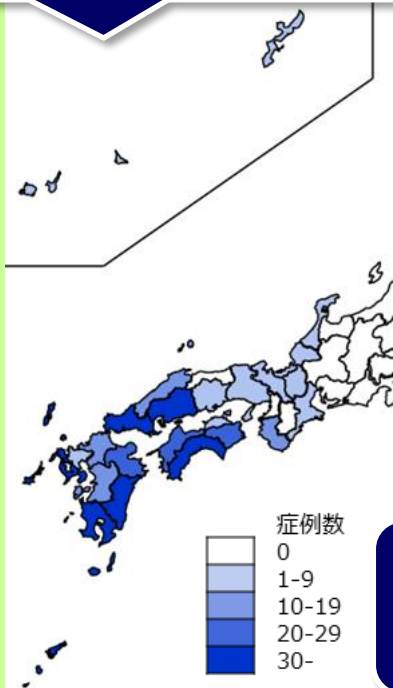
これまでに、**中国・韓国・日本**でSFTSの患者が報告されています。中国では**フタトゲチマダニ**と**オウシマダニ**からウイルスが見つかっています。



**ウイルスの潜伏期間は**  
(マダニに咬まれてから)  
**6日~2週間**  
とされています。

### SFTS症例の推定感染地

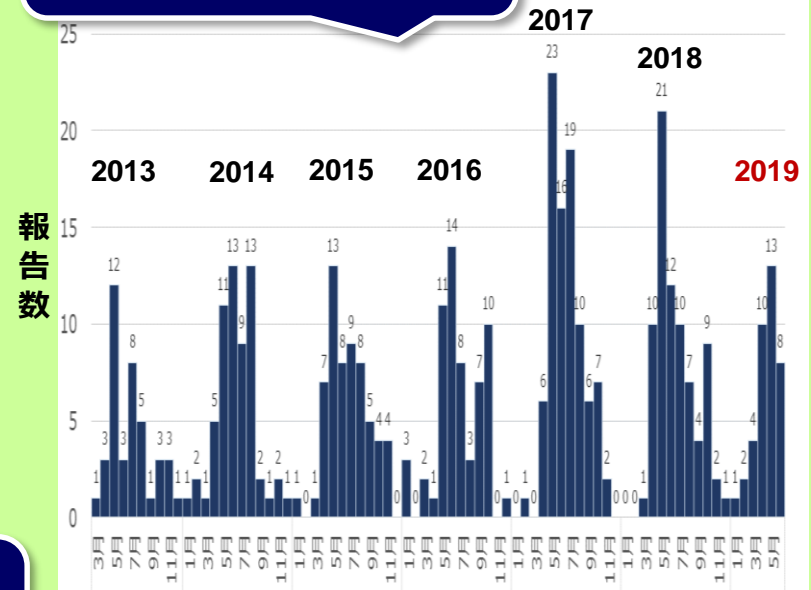
西日本を中心に**23府県**で患者が発生しています。



### SFTS患者基本情報

合計		434名
性別	男	212
	女	222
年齢	中央値	74歳
	~20代	5
	30代	6
	40代	10
	50代	27
	60代	109
	70代	134
	80代	121
	90代	20

SFTS患者は**5~8月**に多く発症しています。



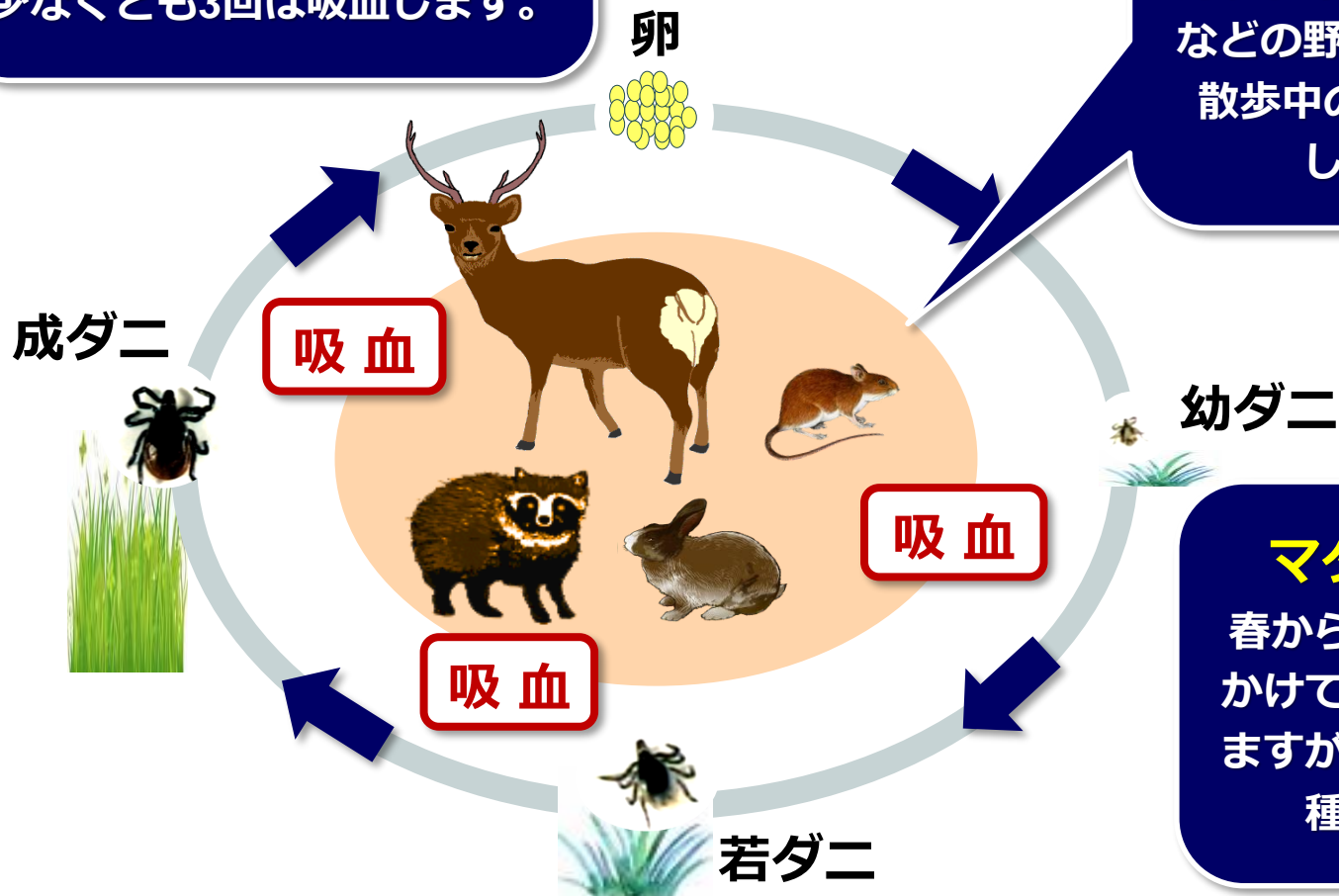
2013年1月1日以降に報告された患者は合計434名です。



# 参考資料 3) マダニの生活環

**マダニ**は、  
幼ダニ、若ダニ、成ダニの  
各ステージで1回以上、生涯で  
少なくとも3回は吸血します。

**マダニ**は、  
ヒト以外に、野ネズミ、  
野ウサギ、シカ、イノシシ  
などの野生動物や、ネコ、  
散歩中のイヌなども吸血  
しています。



**マダニ**の多くは、  
春から秋（3～11月）に  
かけて活動が活発になり  
ますが、冬季も活動する  
種類もいます。